マオタイ本店

メーデー · Maothai 1994

1989 年まで、コルヴィッツ広場周辺のマオタイ本店の界隈には、主に労働者や知識人が暮らしていた。建物はプレンツラウアー・ベルク区の公営住宅管理局の所有だった。東ドイツの終焉とともに、不動産をめぐる争いが始まった。1998 年頃までに、ほとんどの賃貸住宅は民営化され、新しい所有者に売却された。コルヴィッツ広場はベルリン都心で最も地価の高い地域の一つとなった。この過程は何年にもわたって続いた。地元の事情に通じ、建物の取得を望んでいた者たちにとっては、購入価格を低く抑えることが利益になった。したがって、建物の売却が予定されていた時期に、悪名高いクロイツベルクやノイケルンだけでなく、ベルリンの東側でもメーデーに騒乱が起き、その結果、購入者にとって価格がひとまず低く抑えられたのは、決して偶然ではないだろう。これらの抗議行動の活動家の大半は、東ドイツの住民ではなかった。賃貸住宅の売却後、ベルリン警察長官は、この地域の情勢は今や落ち着いたと報告することができた。1998 年以降、プレンツラウアー・ベルクではメーデーに大きな衝突は起きていない。

追伸

マオタイの経営者は、ヴェルター通り 30 番地の建物の改修に 120 万ドイツマルク以上を投資していた。プレンツラウアー・ベルク住宅公社の新しい経営陣は、ハンブルクにあった SPD（ドイツ社会民主党）系の建設企業「ノイエ・ハイマート」の出身だった。同公社は建物を経営者には売らず、同じくハンブルクの不動産管理会社を通じて戦前の所有者に売却した。彼らはその物件をすぐに転売し、相当の利益を得た。

原資料の翻訳